文化財所在地マップ

構成文化財位置図（Googleマップ）はこちら

レイラインとは

「レイライン」とは「大日如来（太陽）」を安置する信濃国分寺と「国土・大地」を御神体とする生島足島神社を直線状に結ぶ夏至の朝日（冬至の日の入り）が照らす光の線のことです。

日本遺産

レイラインがつなぐ「太陽と大地の聖地」

～龍と生きるまち 信州上田・塩田平～

■ 認定ストーリー概要

独鈷山と夫神岳から扇状に開ける地・塩田平は、古来「聖地」として、多くの神社仏閣が建てられている。

山のふもとにある信州最古の温泉といわれる別所温泉、「国土・大地」を御神体とする「生島足島神社」、「大日如来（太陽）」を安置する「信濃国分寺」は、一本の直線状に配置され、レイラインをつないでいる。

夏至と冬至に、鳥居の中を太陽の光が通り抜け、神々しくぬくもりのある輝きを享受できるのだ。

先人たちが、この地が特別であると後世に伝えようと遺した様々な仕掛けは、今も、訪れる人びとにパワーをチャージさせる。

太陽と大地の聖地
信州上田
塩田平
JAPAN HERITAGE

上田市日本遺産オリジナルロゴマークのデザインについて

のぼる太陽から伸びる光は
別所まで続くレイラインとなってこの地の要所を繋ぐ
その光の波は塩田平に点在する
ため池の水面や水田の緑豊かな稲をあらわし
ついには地域に伝わる龍となって
上田の人々のあゆみと祈りの形を表現している

■日本遺産に関するお問い合せ

上田市日本遺産推進協議会

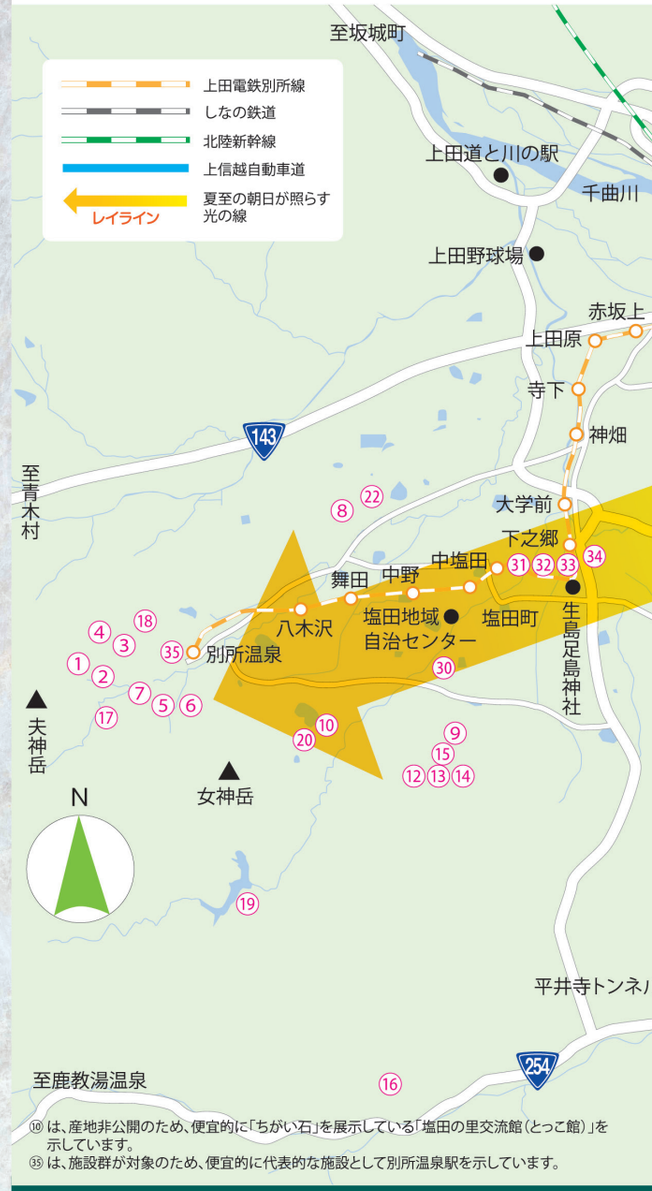
事務局／上田市役所 政策企画部 交流文化スポーツ課
TEL.0268-75-2005
E-mail: japanheritage_ueda@city.ueda.nagano.jp

■文化財に関するお問い合せ

上田市教育委員会 生涯学習・文化財課

TEL.0268-23-6362
E-mail: shogaku@city.ueda.nagano.jp

上田市日本遺産構成



⑩は、産地非公開のため、便宜的に「ちがい石」を展示している「塩田の里交流館（とっこ館）」を示しています。
㉟は、施設群が対象のため、便宜的に代表的な施設として別所温泉駅を示しています。

日本遺産とは

日本遺産とは、文化庁が認定した、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーであり、各地域の魅力あふれる有形・無形の文化財群を、地域が主体となって整備活用し、国内外へ発信することで地域活性化を図るものです。
（全国104件、県内4件認定）

上田市は令和２年６月に全国で93番目に日本遺産に認定されました。

「信州の学海」 ①②③④⑤⑥⑦⑧

上田は、険しい山々に囲まれた盆地ゆえに、本州では一番雨の少ない地だ。「おてんとうさま」が毎日のように微笑み、穏やかな気候という特徴は、信濃国分寺が置かれたこと、鎌倉北条氏の一派が終の棲家としてここを選んだ理由でもある。

塩田平には数多くの寺社が建てられ、中国の高僧や多くの学僧が訪れたのは、山を背に構える別所温泉があったことが大きい。豊かな湯で心まで洗われる温泉の楽しみがあったからこそ、僧たちは、この地を訪れたのであろう。

別所温泉にある安楽寺を訪れてみると、薄暗い木立の中、見上げるように階段を登った先に、日本唯一の木造八角三重塔が目に飛び込んでくる。微かな光の方向に仰ぎ見る屋根裏の華やかな木組みは、私たちを自ずと厳かな気持ちにさせてくれる。しかも「四重塔」にも見える不思議な形だ。

また、北向観音堂は、善光寺と「両参り」すると御利益が増すという。境内の手水(ちょうず)までも温泉を使い、湯煙が立ち上がる境内には温泉の匂いが漂う。見晴台に立つと、塩田平から市街地までを見渡せ、我はこの地に降り立ったのだ、という気持ちにさせられる。この地が僧たちにとって「特別な場所」であり、「別所」と名付けられたことも納得できる。湯煙が漂う地に花開いた仏教文化の遺産は、湯浴みの効能のみならず、訪れる人々を癒している。

① 安楽寺八角三重塔

日本唯一の木造八角三重塔。鎌倉時代建築とされ、内部には大日如来が安置されている。

② 木造惟仙和尚坐像
木造恵仁和尚坐像

樵谷惟仙が安楽寺開山、幼牛恵仁が二世とされ、没後に弟子が造立した等身大の「頂相」とされる。

③ 常楽寺本堂

樵谷惟仙をはじめ、多くの僧が学んだ「信州の学海」を支えた寺院。
本堂は江戸時代中期建築。本尊は大日如来の五つの智慧を表す五智如来の一尊である妙観察智阿弥陀如来である。

④ 常楽寺石造多宝塔

鎌倉時代の多宝塔。塔が建てられている所は、北向観音の出現地といい、境内でもっとも神聖な場所とされる。

⑤ 北向観音堂

北向きの本堂は非常に珍しく善光寺と相対している。「極楽往生」を願う善光寺と「両参り」し、ここで「現世利益」を祈ることで、御利益があるとされる。
手水舎には温泉が使われている。

⑥ 善光寺地震絵馬

「善光寺だけでは片参り」のいわれを伝える絵馬。幕末の善光寺地震の様子を描いている。

⑦ 愛染カツラ(別所五木)

神仏が姿を現した「影向の桂」といわれる霊木で、今でも縁結びの霊木として老若男女に親しまれている。

⑧ 舞田の石造五輪塔

総高212㎝の鎌倉時代の五輪塔。
中央には梵字「バン」(大日如来)が刻まれている。

神宿る「山」への祈り ⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲

上田の雨が少ない気候は、風雨が引き起こす災いからこの地の暮らしを守ってきた。しかし、それゆえに神は時として干害などの試練を課してきた。人びとは水源となる山々に神を崇め、祈り、恵みの雨を願った。

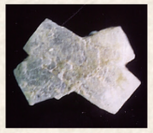
500 年以上も続く雨乞いのまつりである「岳の幟(たけののぼり)」は、色鮮やかな幟が特徴的だ。「下り龍」を描いた幟で、夫神岳山頂に祀られた「麓"オカミ"」と呼ばれる九頭龍神を山麓の別所神社までお連れする。龍をかたどったたくさんの幟を迎えるのは、三頭獅子とささら踊りの子どもたち。カラフルな幟と衣装が鮮やかに映え、山間に歌声と太鼓の音が響くころには、本当に、龍からの雨に恵まれる。

山には、古より受け継がれてきた水への憧れと神への畏怖が投影される。龍が宿るこの山は、山菜や松茸など、山の幸をはぐくみ、マツタケ小屋の隆盛につながっている。

⑨ 前山寺三重塔

室町時代の造立で「未完成の完成塔」と称される。内部には大日如来の額が掲げられている。

⑩ ちがい石とその産地



「誓い石」とも呼ばれ、弘法大師空海が「保持すれば災厄から免れさせる」ことを誓ったという伝説を秘める。

⑪ 西光寺阿弥陀堂

本堂の本尊は大日如来。阿弥陀堂は室町時代の建築とされ、阿弥陀三尊が安置されている。

⑫ 中禅寺薬師堂

平安時代末期か鎌倉時代初期の建物とされる。薬師如来像を祀る「薬師堂」であるが、「方三間の阿弥陀堂」形式となっている。

⑬ 中禅寺木造薬師如来坐像

薬師堂の本尊で、平安時代後期(藤原期)の「定朝様」に進取の鎌倉様式を取り入れた、いわゆる「藤末鎌初」の仏像。

⑭ 中禅寺木造金剛力士像

薬師堂仁王門に安置された、平安時代末の信州最古の金剛力士像

⑮ 前山塩野神社拝殿及び本殿

江戸中期の建築とされ、拝殿は珍しい「楼門造り」。境内に塩野川が流れ、本殿には龍が彫られている。

⑯ 法住寺虚空蔵堂 附 厨子

独鈷山を主峰とする虚空蔵信仰の山麓寺院。
室町時代中頃に造られた建物と考えられる。

⑰ 別所温泉の岳の幟行事

室町時代から続くとされる夫神岳頂上の龍を幟とともに麓へ下ろす雨乞いの祭り

⑱ 別所神社本殿
(神楽殿)(本朝縁結大神祠)

岳の幟行事の終着地。
江戸時代中期の建築とされる。

⑲ 鞍が淵と蛇骨石

水の神である大蛇が登場する「小泉小太郎」伝説の舞台となる産川の名勝。

祈りの言葉は「アメ フラセタンマイナ」 ⑳㉑㉒

塩田平はため池を造って水を蓄え、ここで温めた水を田んぼに入れて稲の生長を促し、「塩田三万石」と呼ばれる上田随一の穀倉地帯へと変身した。ため池でも「百八手」と呼ぶ雨乞いのまつりが行われる。池の周りを大勢で囲んで「たいまつ」に火をつけ、もくもくと上がる煙のなか「アメ フラセタンマイナ」と唱える。ため池は稲穂をはぐくむだけでなく、マダラヤンマなどの命もつないできた。人柱やカッパなどの伝説は、ため池にも神を崇めていたことをうかがわせる。

雨を願う人びとは、時に荒療治として路傍のお地蔵様を川へ放り込んだ。ここでも祈りの言葉は「アメ フラセタンマイナ」。お地蔵様を怒らせてでも、龍(雨)との再会を願っていた。

独鈷山と夫神岳、そして麓の寺社は、常に塩田平の人びとの暮らしに寄り添ってきた。そして、路傍のお地蔵様は、また川に投げ込まれないかと心配して、今日も雨雲を待ちながら空を見上げている。これが「山に神、野に仏」とも言うべき、上田の人びとがつないできた「祈りのかたち」だ。

⑳ 千駄焚き・百八手

日照りの年に、山頂やため池の土手で、松明を点したり、藁の束などに火をつける雨乞い行事。

㉑ 奈良尾石造大姥坐像

雨乞いにより雨が降ったことに感謝した住民が造ったとされる。

㉒ 保野の祇園祭

室町時代から続くとされる。大凶作で中止したところ疫病が蔓延したことから、毎年続けられている。

未来への懸け橋 ㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟

このように塩田平には、この地を特別な「聖地」とする景観が遺されている。国土・大地を祀る「生島足島神社」、「大日如来(太陽)」が安置された「信濃国分寺」。生島足島神社は夏至には太陽が東の鳥居の真ん中から上がり、冬至には西の鳥居に沈む。太陽と大地は、この神秘的な光景をレイラインとして現代に遺した。

そして、この「太陽と大地の聖地」に重なるように遺したもうひとつの景観が、100年前から守り続けてきた鉄道・別所線だ。生島足島神社から、別所温泉までの軌道は、不思議なことにレイラインと一致する。そして、駅をつなぐ線路は、空からみると龍のかたちをしていると言われる。塩田の人びとは龍を特別な神として崇め、祀り、龍とともに生きてきたことを、別所線の軌道に投影して大切に遺してきたのだ。龍の背に乗ってめぐる「太陽と大地の聖地」は、これからも、まぶしいばかりの輝きとぬくもりをもって、訪れる人の心に光を与えてくれるだろう。

㉓ 信濃国分寺跡

奈良時代に建立された国分寺の跡。一度衰退し再興されたのが現在の信濃国分寺。

㉔ 信濃国分寺本堂

江戸時代末期建築で堂としては東信最大。
薬師如来(秘仏)が安置され、12年に一度ご開帳となる。

㉕ 信濃国分寺三重塔

室町時代の建築とされ、内部には大日如来が安置されている。正月などに公開される。

㉖ 信濃国分寺石造多宝塔

鎌倉時代の作とされる。各所の窪みは粉にして飲むと病気が治るという信仰の痕跡とみられる。

㉗ 牛頭天王祭文

室町時代の書写とされ、「蘇民将来符頒布習俗」のいわれが記されている。

㉘ 上田市八日堂の蘇民将来符頒布習俗

毎年1月8日に行われる八日堂縁日にて木製の六角推の護符を頒布する習俗。

㉙ 八日堂縁日図

江戸時代の八日堂縁日の様子を描く。
当時の生活の様子がわかる貴重な資料。

㉚ 泥宮

「大地(泥)」を御神体とし、生島足島神社が創建された時に、遺霊をここに残したといわれる神社。

㉛ 生島足島神社本殿内殿

大地を御神体とする神社の本殿。内殿は室町時代の建築とされる。夏至の日に鳥居の中から日が昇る。太陽と大地を結びつける場所である。

㉜ 生島足島神社摂社諏訪社本殿

真田信之が建てたとされ、雨神や農耕神ともされる諏訪神を祀る。

㉝ 生島足島神社文書

武田信玄が配下の武将に、謀叛しないことを誓わせた起請文等がある。当時もこの神社が重視されていたことがわかる。

㉞ 長福寺銅像菩薩立像

信州夢殿の本尊として安置されている白鳳時代作とされる小金銅仏。3度盗難に遭うも戻ったことから「お戻り観音」とも呼ばれる。

㉟ 別所線の鉄道施設

大正10年開通の私鉄。一部レイラインと並行しており、近代の趣を残す駅舎が多く使用されている。